

水路記念碑

「日本国海図及び海洋調査発祥の地」

明治4年、ときの政府は、海運や国防のために船舶が安全に航海するため海の深さや目標物を記した海図の整備が急務であると考え、兵部省海軍部水路局を現在の東京都中央区築地に創設し、外国人に頼らず独力で海洋調査を行って日本国として初めての海図を作製しました。これらの業務は海上保安庁海洋情報部に引き継がれ、現在も続けられています。

平成23年、海洋情報部の庁舎を江東区青海に移転することとなり、140年に亘る長い歴史を刻んだ築地の地を発祥の地として後世に伝えることとしました。

平成27年4月、海洋情報部庁舎の跡地には、東京国税局の庁舎が完成し、庁舎前広場に水路記念碑が設置されました。寄付により製作した記念碑には、発祥当時の海図の印章と、「日本国海図及び海洋調査発祥の地」との題字が刻まれ、その由縁が日本語と英語で記されています。また、記念碑後ろの樹木は、海洋情報部庁舎時代に中庭の殉職者慰霊碑付近にあったクスノキが移植されたものです。

水路記念碑は、通りに面した広場に設置されており、いつでも自由に観て頂くことができます。

《水路記念碑案内図》

